



かがやく瞳

No. 26

発行日 令和6年11月12日
 発行責任者 大江 學
 編集 社会福祉法人
 北見福祉会広報委員会
 〒090-0835 北見市光西町 178-5
 TEL 0157-57-5057
 FAX 0157-57-4767

じょうぶな体の子ども
 ゆたかな心の子ども
 のびのび遊ぶ子ども

周りの紅葉も色鮮やかに染まり、秋の深まりを感じるこの頃です。朝・夕、肌寒い時季となり、山間部や峠では雪のニュースも報道され、冬将軍もすぐそこまで到来したのではないかと思うほどです。

『地球沸騰化』～子ども達の将来のために！

「今年の夏も暑かったですね。」というより、もうこの暑さは今後当たり前という状況の様です。

「地球温暖化」という言葉は、40年程前から聞かれるようになりましたが、近年では「地球沸騰化」と言われるようになりました。ゲリラ豪雨や竜巻が発生し、「線状降水帯」「爆弾低気圧」など日常的に聞かれるようになり、台風も以前とは違う動きで、伊豆諸島沿いに発達しながら本州に上陸し、北上するなど誰もが異常気象と実感できる程です。今年も日本各地、また、世界各地で台風による甚大な災害が起きたことはご存知の通りです。

また、気温の上昇に伴い、こども園でも熱中症に気をつけ、熱中症警戒アラートを確認しながらの外遊びになっており、北見市内の学校においても各教室に冷房器具を設置する等、「北海道だから、少しの間我慢すれば涼しくなる。」という状況ではなくなっています。



地球の環境破壊は、250年程前の産業革命の頃から始まったと言われていています。今後の環境保全の取組により、以前の地球環境に戻すことや環境破壊を完全に止めることは難しいのかもしれませんが、子ども達の将来を考え、環境の悪化を遅らせる手立てを講じることは親として、私達大人としての責任であると考えます。まずは、できることから…。

余談ですが、今後、このまま地球沸騰化に伴う気温上昇が進むと、冬季オリンピックでこれまで再度開催が可能な都市は21都市あったとされていますが、今世紀終盤には、スキー競技などを確実に実施できる都市は日本の札幌市だけになるとの予測をカナダの大学の研究チームが発表しました。過日、スキージャンプの高梨沙羅選手が「世界的に雪不足で、満足な練習をするのが難しい。」という話をしていたのが印象的です。

***** 地域支援事業の取組 *****

本法人では、各こども園の開放等「地域支援事業」に取り組んでいます。9月25日には、光西認定こども園で、こども園開放『運動あそび～運動会ごっこをしよう！』を実施しました。

当日は、1歳児と2歳児の親子2組の参加者があり、光西認定こども園の1歳児・もも組と一緒に「かけっこ」や「障害物あそび」等で遊びました。「障害物あそび」では、はしごまたぎや跳び箱のジャンプ、踏み切り台の小さな坂の障害物等で自由に遊べるようにし、皆で楽しむことができました。1歳児・もも組の園児もだんだんと新しいお友達に関わるが多くなり、一緒に遊んでいる姿が微笑ましかったです。

遊びの後は、参加された親子で園舎内を見学し、親からのトイレトレーニング等についての子育てに関する相談を受けました。

今後の本法人の各園の開放の予定については、本法人ホームページや各園にてご確認ください。



各こども園での「こども達の様子」を紹介します

9月25日、子ども達が楽しみにしていた「汽車の旅」がありました。当日は、天気にも恵まれ、お出かけ日和！トンネルを抜けて景色が変わるだけでも大興奮の子ども達でした。



目的地のちゃちゃワールドでは、友達と一緒に木のおもちゃで夢中になって遊びました。ままごとやカラフルなカプラ等、普段なかなか触れることのできない木のおもちゃでいっぱい遊び、楽しい思い出がたくさんできました。



帰りは、遊び疲れと美味しいお弁当でお腹いっぱいでもあり、汽車の揺れが気持ちよくて寝てしまう子もいました。

(「5歳児汽車の旅」～夕陽ヶ丘認定こども園)

9月14日、さわやかな秋晴れの下、光西中学校グラウンドで運動会を開催しました。「玉入れは負けないぞ!」「紅白リレーは負けないぞ!」等、朝から気合十分の子ども達!!



5歳児・ひまわり組の手作り縄跳びでの「走り縄跳び」の入場からスタートし、皆ノリノリの「秘伝ラーメン体操」や「かけっこ」、「紅白リレー」等、どの競技も子ども達の一生懸命頑張る姿



を見ることができました。特に、クラス競技では、戸板登りや鉄棒、縄跳び、跳び箱等、力いっぱいやりきり、子ども達一人一人の成長が感じられた一日となりました。

(「運動会」～光西認定こども園)

春先に植えた野菜が次々と収穫時期を迎え、ミニトマト、キュウリ、ニンジン、ジャガイモに続いて、大豊作だった枝豆とまるまると大きく育ったスイカを収穫しました。



枝豆は実がパンパンに膨らんで、茹でるとふっくらして甘く美味しかったです。特に、スイカの甘さは格別で、その瑞々しさにびっくり！お店でも売れるような美味しさです。小さいクラスのお友達にも



おすそ分けをし、皆でお腹いっぱい食べました。子ども達は、「いただきます。」と同時にかぶりつき、いつもは賑やかな保育室がシーンと静かに…。美味しいものを頬張るとおしゃべりするの忘れてしまうようです。

(「野菜の収穫」～みなみ認定こども園)

***** 『文字や活字に親しむ』 *****

「読書の秋」とも言われますが、急速に進む情報化の中で、子ども達の読書離れが大きな話題となっています。

2023年度の国語世論調査(5年毎の調査、16歳以上対象)では、1カ月に読む本(電子書籍を含む、雑誌・漫画は除く)の数について、「読まない」との回答が62.6%(前回調査から15.3ポイント増)と初めて半数を超え、過去最高になったということです。但し、このうち75.3%が、交流サイト(SNS)やインターネット記事等、本以外で情報を読む頻度が「ほぼ毎日ある」と回答しています。

この結果を受けて文化庁は、「紙、電子媒体を問わず、双方の利点を踏まえて活用し、文字や活字に触れる機会を今後も維持し増やすことが大事だ。」としています。



江戸時代の藩校や寺小屋では、「素読(そどく)」が行われていました。「素読」というのは、「論語」等の古典を内容は二の次にして、文字だけを繰り返し声に出して読み、暗唱する学習方法です。「読書百遍、意自ずから通ず」ということわざがあるように、昔の人は経験的にこの作業を繰り返すことで「言葉の意味」を理解するということを知っていたようです。

さあ、これからの夜長、たまには携帯やタブレットから離れ、テレビを消して、ご家族みんなで読書タイムにしてみてもいいかもしれません。